

**第2期中期目標期間
公立大学法人新潟県立看護大学の
業務実績に関する評価結果**

令和7年9月

新潟県公立大学法人評価委員会

目 次

1	はじめに	1
2	評価（期間評価）の仕組み	2
3	評価結果	
(1)	全体評価結果	3
(2)	大項目別評価結果	5
4	参考	
◇	指標（数値目標）の達成度一覧	21
◇	公立大学法人新潟県立看護大学の中期目標期間の業務実績評価 （期間評価）実施要領	23
◇	新潟県公立大学法人評価委員会看護大学部会 委員一覧	28
◇	第2期中期目標期間業務実績報告書	別添

1 はじめに

公立大学法人新潟県立看護大学は、新潟県における看護学教育・研究の中核的機関として、教育研究活動に励み、多様に変化する社会ニーズに柔軟に応じうる資質の高い看護人材を育成するとともに、その成果を絶えず地域社会に還元し、看護学の発展と保健・医療・福祉の向上に寄与することを目的とし、「高度な看護人材の供給と確保」、「地域課題の研究・発信」、「国内外の関係機関との連携」を基本方針に位置づけ、その達成に向けて取り組んでいる。

令和6年度で6年間の第2期目標期間を終了したことから、新潟県公立大学法人評価委員会は、地方独立行政法人法に基づき、中期目標に基づく取組の達成状況を検証の上、認証評価機関による評価結果を踏まえ、客観的、専門的かつ総合的な視点で、第2期中期目標期間の業務実績に関する評価（期間評価）を行った。

第2期中期目標期間のうち、令和元年度から令和4年度においては、新型コロナウイルス感染症の流行の波が繰り返し発生し、学校運営において様々な制約がある中、業務全般の着実な遂行と中期目標の達成を目指し、学長を中心に教職員一丸となって、社会情勢に応じた学修環境の更なる充実を図った。

今後も大学が社会的使命を果たすべく、当評価委員会が行う評価が、法人の自主的かつ継続的な業務運営の見直し・改善を促し、第3期中期目標期間において、更なる教育研究の質的向上、業務の効率化及び透明性の確保に資することを期待する。

令和7年9月

新潟県公立大学法人評価委員会 看護大学部会

部会長	成田一衛
委員	神代聡子
委員	中條美奈子
委員	菱沼典子

2 評価（期間評価）の仕組み

(1) 評価の根拠

地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）第 78 条の 2

(2) 評価の対象

法人の第 2 期中期目標（平成 30 年 12 月指示。目標期間：平成 31 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日）の達成状況

(3) 評価の基準

公立大学法人新潟県立看護大学の中期目標期間の業務実績評価（期間評価）実施要領（令和 4 年 9 月 2 日新潟県公立大学法人評価委員会決定）

(4) 評価の経緯

令和 7 年 6 月 30 日	法人から業務実績報告書の提出
8 月 7 日	第 2 回看護大学部会開催（中項目別評価の審議）
8 月 19 日	中項目別評価を法人に提示
9 月 1 日	法人から中項目別評価案に対する意見の提出
9 月 8 日	第 3 回看護大学部会開催 （大項目別評価、全体評価の審議）
9 月 8 日	評価書の確定

3 評価結果

(1) 全体評価結果

評価結果	中期目標の達成状況は『良好』である
------	-------------------

ア 評価理由

第2期中期目標期間である令和元（平成31）年度から令和6年度においては、理事長を中心とした機動的な運営体制の下、業務全般の安定した遂行と中期目標の達成を目指し、特に「教育」、「地域貢献・国際交流」、「業務運営の改善及び効率化」及び「その他の業務運営」の分野で、多くの実績が認められた期間であったと言える。

教育に関する事項では、学生確保に向けた積極的な取組により、厳しい外部環境下で学部学生の志願者を確保したことに加えて、学生の授業満足度が高いことや、国家試験合格率及び就職希望者の就職率が高水準を維持するなど、大学の使命である資質の高い看護人材の育成・輩出に、多くの実績が認められた。

地域貢献に関する事項では、県内看護職者を対象とした支援ニーズ調査を実施し、看護職学習支援公開講座をオンラインで開催するほか、上越地域の関係機関の新型コロナウイルス感染症にかかる協力要請に応じて、ワクチン接種や電話相談業務に学生が従事するなど、地域の保健・医療・福祉に大いに貢献した。

業務運営等に関する事項では、各種システムの導入や手続きの見直しによる業務効率化の推進など運営体制の改善に加えて、指定緊急避難所の開設や新型コロナウイルス疫学調査における教員派遣、村上市・関川村豪雨災害における保健相談活動の調整など、上越地域にとどまらず県内での災害支援に大きく貢献した。

以上を総合的に勘案した結果、全体として、「中期目標の達成状況は『良好』である」と判断した。

イ 特筆すべき取組、顕著な成果

【教育研究上の質の向上に関する目標】

- 少子化が進行する中での学部学生の志願者確保 【大項目 1 (No. 1)】
- 新型コロナウイルス感染症の影響下における実習施設との連携や、臨地実習停止となった学生への対応 【大項目 1 (No. 3)】
- 教育の質の向上への取組と学生の授業満足度の高さ 【大項目 1 (No. 3)】
- 国家試験合格率の高水準 【大項目 1 (No. 4)】
- 研究実施体制の整備に向けたニーズ把握と取組の強化 【大項目 2 (No. 6)】
- 県内看護職者のニーズに対応したリカレント教育の実施 【大項目 3 (No. 7)】
- 新型コロナウイルス感染症対応に係る関係機関との連携による地域貢献 【大項目 3 (No. 7)】

【業務運営に関する目標】

- 公益通報窓口を学内・学外に設置 【大項目 4 (No. 10)】
- 各種システムの導入や手続きの見直しによる業務効率化の推進 【大項目 4 (No. 10、12)】
- 業者との調整や国補助金の活用により、経費削減に努めながら施設の効率的整備を実施 【大項目 5 (No. 15)、大項目 7 (No. 19)】
- ホームページアクセス件数の高水準など情報発信の推進 【大項目 6 (No. 17)】
- 県内の災害対応への貢献 【大項目 7 (No. 20)】

ウ 主な課題・改善点、今後に向けた提言・期待

- 大学院における社会人学生の確保に向けた対応 【大項目 1 (No. 1)】
- 研究活動の活性化と研究水準の向上 【大項目 2 (No. 5、6)】
- 大学院の定数充足による授業料収益及び外部研究資金の獲得による自己収入の増加 【大項目 5 (No. 13)】

エ 項目別評価結果一覧

全体評価	大項目別評価		中項目別評価	
良好	1 教育に関する事項	A 良好	(No.1) 学生の確保	b 中期計画の達成状況は概ね良好である
			(No.2) 教育の内容	a 中期計画の達成状況は良好である
			(No.3) 教育の実施体制	a 中期計画の達成状況は良好である
	2 研究に関する事項	B 概ね良好	(No.4) 学生への支援	a 中期計画の達成状況は良好である
			(No.5) 研究水準及び成果等	b 中期計画の達成状況は概ね良好である
	3 地域貢献・国際交流に関する事項	A 良好	(No.6) 研究実施体制の整備等	a 中期計画の達成状況は良好である
			(No.7) 地域社会ニーズへの対応	a 中期計画の達成状況は良好である
			(No.8) 地域社会との連携	a 中期計画の達成状況は良好である
	4 業務運営の改善及び効率化に関する事項	A 良好	(No.9) 国際交流	b 中期計画の達成状況は概ね良好である
			(No.10) 運営体制の改善	a 中期計画の達成状況は良好である
			(No.11) 人事の適正化	a 中期計画の達成状況は良好である
			(No.12) 事務の効率化・合理化	a 中期計画の達成状況は良好である
	5 財務内容の改善に関する事項	B 概ね順調	(No.13) 自己収入の増加	a 中期計画の達成状況は良好である
			(No.14) 経費節減	b 中期計画の達成状況は概ね良好である
			(No.15) 資産の運用管理の改善	a 中期計画の達成状況は良好である
	6 自己点検・評価及び情報公開の推進に関する事項	B 概ね順調	(No.16) 自己点検・評価の実施	b 中期計画の達成状況は概ね良好である
			(No.17) 情報公開の推進	b 中期計画の達成状況は概ね良好である
7 その他業務運営に関する事項	A 良好	(No.18) 法令遵守の推進	b 中期計画の達成状況は概ね良好である	
		(No.19) 施設の効率性の整備	a 中期計画の達成状況は良好である	
		(No.20) 危機管理	s 中期計画の達成状況は優れている	
		(No.21) 人権の保護	b 中期計画の達成状況は概ね良好である	
		(No.22) 情報セキュリティ対策	b 中期計画の達成状況は概ね良好である	

(2) 大項目別評価結果

大項目1 教育に関する目標	
評価結果	A：中期目標の達成状況は『良好』である
ア 評価理由	
<p>学部については、18歳人口の減少や近隣県・県内における看護系大学の新設といった厳しい環境に加えて、新型コロナウイルス感染症の拡大により様々な活動が制限されたが、高校生のニーズに応じた積極的な入試広報活動を行ってきた。少子化が進行し総受験者数が減少する中で、一定の志願倍率を維持したことを評価する。</p> <p>大学院については、社会人学生が受講しやすい学修環境を整備してきたが、入学者数は令和2年度以降、在籍者数は令和4年度以降、定員を満たしていない。</p> <p>実習等の教育実施体制については、新型コロナウイルス感染症の影響下において、臨地実習実施へ向けた調整及び実習停止になった学生へ個別対応を行ったことを評価する。</p> <p>国家試験合格率は助産師では10年連続で100%を達成（助産師コースの大学院化に伴い令和5年度まで）するとともに、看護師では期間を通じて全国平均を上回る高水準を維持した。なお、保健師課程については令和3年度入学生より選抜制とし、履修人数は80人程度から50人程度へと減少したが、合格率は100%を達成した。</p> <p>これらの実績を評価し、教育に関する目標の達成状況は、「良好」とであると判断した。</p>	

イ 中項目別評価結果

(No.1) 学生の確保【b：中期計画の達成状況は概ね良好である】

学部については、18歳人口の減少や近隣県・県内における看護系大学の新設といった厳しい環境下で、新型コロナウイルス感染症の拡大を機に、オンラインによるオープンキャンパスや個別相談会を実施し、対面型オープンキャンパスの再開後も、オンデマンドによるオープンキャンパスを継続して実施した。少子化が進行し総受験者数が減少する中で、一定の志願倍率を維持したことを評価する。なお、学生確保が厳しい一方、当県における看護人材不足を鑑みると、今後、高校新卒者以外の志願者受け入れについても検討されたい。

大学院（助産師コース）については、従来、助産師については、学部学生の国家試験合格率が10年連続100%（3～4名）であったが、令和6年度より大学院へ移行（定員4名）した。学生にとっては負担が増加するが、より充実した教育を期待する。

大学院（研究コース・CNSコース）については、院生のニーズに合わせて受講環境を整えるなど、法人としてきめ細かく対応しているが、入学者数は令和2年度以降、在籍者数は令和4年度以降、定員を満たしていない。主な対象者は現役看護師であり、医療機関の看護人員のひっ迫など外部環境は厳しいと思われるが、

今後、臨床現場にメリットのあるコース設定を検討するなど、問題意識をもって取り組んでもらいたい。

(No.2) 教育の内容 【a：中期計画の達成状況は良好である】

学部においては、新型コロナウイルス感染症に対応し、直ちに遠隔授業を開始するとともに、状況に応じて早期の対面授業の再開や対面とオンラインによる授業の併用を行うなど、柔軟に対応した。また、卒業時の保健師に求められる実践能力の強化と、公衆衛生看護学実習の受入れ自治体の業務多忙と中越地方における保健師養成大学の新設を踏まえて、受入れ自治体の能力に応じた調整を図るため、令和3年度入学生から、保健師課程を自由選択制から選抜制（50人程度）に変更し、主に実習や演習における少人数教育を進めることで教育内容の充実を図った。

大学院においては、より専門的、多角的な観点からの博士論文指導を行うことを目的として、大学院博士後期課程の専門分野を7分野から4分野に集約した。また、出産年齢の高齢化、ハイリスク妊娠の増加、産後うつなど助産師に求められる知識・技術がより高度になっていることなどに対応し、令和6年度に博士前期課程助産師コースを開設し、助産師教育を学部から大学院に移行（助産師課程の大学院化）した。

令和元年度、新潟県より受託した「専門性の高い看護職員の育成検討会」において県内看護系大学のCNS教育課程の設置状況等の調査を行い、令和2・3年度には、県内看護系大学が専門性の高い看護職員の育成について意見交換会を行った。引き続き県内看護職の質向上の取組に積極的に取り組まれない。

(No.3) 教育の実施体制 【a：中期計画の達成状況は良好である】

学部においては、実習施設の臨床講師・実習指導者と大学教員の実習懇談会や、看護師養成校との実習に関する調整会議など、実習における感染予防対策に関する意見交換を行うとともに、より学生の希望に添った実習配置が可能となるよう、希望調査等に基づき、実習施設との調整を行った。

大学院生のCNS実習は、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、実施場所や実施時期を変更するなど調整しながら実施した。学部、大学院とも、新型コロナウイルス感染症の影響下において、臨地実習実施へ向けた調整及び実習停止になった学生へ個別対応を行ったことを評価する。

教員の教育能力の向上のため、令和元年度の試行を経て、令和2年度から新たに教員相互で授業公開と検討を行う授業検討会を開始し、内容を検討しながら継続的に実施してきた。一方、授業公開への参加教員が減少している理由として教員の業務多忙が挙げられている。教育研究以外の諸業務の負荷が過大になれば、大学としての土台が弱くなる。短期的な経営合理化よりも、長期的な人員計画や間接業務の軽減等、経営者は十分留意されたい。

学生の授業内容満足度は、期間を通して目標値を上回る高水準を維持した。引き続き、学部・大学院において学生の希望に沿った実習が可能となるよう、実習施設の確保や調整に努められたい。

(No.4) 学生への支援 【a：中期計画の達成状況は良好である】

学習支援については、令和元年度から1～3学年の学年担任を増やし、学生全員の個別面談・学習状況の把握等を行うなど体制を強化した。

キャリア支援については、国家試験合格率は、継続して100%もしくは100%に近似する高い合格率を維持している。保健師課程については令和3年度入学生より選抜制とし、履修人数は80人程度から50人程度へと減少したが、合格率は100%を達成した。助産師課程については大学院移行後も引き続き充実した教育の実施を期待する。また、大学院のCNS養成課程修了生に対して勉強会等を開催し、6年間で老人看護6名及びがん看護6名が専門看護師認定審査に合格するなど、継続的に合格者を輩出してきた。

県内就職率は目標値に達しないものの、最終年度である令和6年度は指標評価目標値を「概ね達成」している。学年別に学生のニーズに応じたキャリアガイダンスを実施しており、就職希望者について100%もしくは100%に近似する就職率となっている。県立の大学として、引き続き県内就職率の向上に努められたい。

【参考】

年度評価における「教育」に関する中期計画の進捗状況評価

R1	R2	R3	R4	R5	R6
A	A	A	A	A	A

(進捗状況評価基準)

S : 優れて順調、A : 順調、B : 概ね順調
C : やや遅れている、D : 遅れている

指標（数値目標）の進捗状況一覧

中項目	指標		目標値/実績値/達成度[達成率]						
			R1	R2	R3	R4	R5	R6	
(No.1) 学生の確保	No.2 志願倍率	目標値	4.3倍	4.3倍	4.3倍	4.3倍	4.3倍	4.3倍	
		実績値	4.1倍	3.1倍	8.3倍	3.8倍	4.3倍	4.7倍	
		達成度	○ [95.3%]	△ [72.1%]	◎ [193.0%]	○ [88.4%]	◎ [100.0%]	◎ [109.3%]	
(No.3) 教育の実施体制	No.3 学生の授業内容満足度 (5段階評価の平均)	目標値	4.2点	4.2点	4.2点	4.2点	4.2点	4.2点	
		実績値	4.6点	4.3点	4.4点	4.5点	4.6点	4.7点	
		達成度	◎ [109.5%]	◎ [102.4%]	◎ [104.8%]	◎ [107.1%]	◎ [109.5%]	◎ [111.9%]	
(No.4) 学生への支援	No.1 国家試験合格率 ※ ○概ね達成(全国平均 値以上~100%未満)	看護師	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%
			実績値	100%	99.0%	100%	97.9%	97.9%	100%
			達成度	◎ [100%]	○ [99.0%]	◎ [100%]	○ [97.9%]	○ [97.9%]	◎ [100%]
		保健師	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%
			実績値	96.4%	97.8%	97.5%	96.6%	97.5%	100%
			達成度	○ [96.4%]	○ [97.8%]	○ [97.5%]	△ [96.6%]	○ [97.5%]	◎ [100%]
		助産師	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%
			実績値	100%	100%	100%	100%	100%	-
			達成度	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	[-]
	No.4 就職希望者の就職率	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
		実績値	100%	98.9%	100%	100%	97.7%	100%	
		達成度	◎ [100%]	○ [98.9%]	◎ [100%]	◎ [100%]	○ [97.7%]	◎ [100%]	
	No.5 新卒者(全学)の県内就職率	目標値	69%	69%	69%	69%	69%	69%	
		実績値	50.6%	66.7%	59.3%	63.7%	47.7%	68.1%	
		達成度	△ [73.3%]	○ [96.7%]	○ [85.9%]	○ [92.3%]	△ [69.1%]	○ [98.7%]	
No.5 新卒者(県内出身)の県内就職率	目標値	85%	85%	85%	85%	85%	85%		
	実績値	61.1%	77.9%	68.7%	79.5%	59.7%	79.2%		
	達成度	△ [71.9%]	○ [91.6%]	○ [80.8%]	○ [93.5%]	△ [70.2%]	○ [93.2%]		

* 指標の達成度 = ◎達成(100%以上) ○概ね達成(80%以上~100%未満) △やや遅れている(60%以上~80%未満) ▲遅れている(60%未満)

大項目2 研究に関する目標

評価結果

B：中期目標の達成状況は『概ね良好』である

ア 評価理由

令和元年度に教員を対象に実施したアンケート調査のニーズ結果を踏まえて、英語論文作成のサポートを図るため、英語教員と協議を重ね、令和4年度に英語論文投稿支援制度を立ち上げた。

論文の被引用件数は期間を通して目標値を上回った一方で、著書件数や論文件数、学会報告件数については、多くの年度で目標値に達しなかった。特に、研究成果の重要な指標である論文件数については、目標未達の原因分析の上対策を講じられたい。

これらの状況を総合的に評価し、研究に関する目標の達成状況は、「概ね良好」とであると判断した。

イ 中項目別評価結果

(No.5) 研究水準及び成果等【b：中期計画の達成状況は概ね良好である】

令和元年度に教員を対象に実施したアンケート調査のニーズ結果を踏まえて、英語論文作成のサポートを図るため、英語教員と協議を重ね、令和4年度に英語論文投稿支援制度を立ち上げた。

論文の被引用件数は期間を通して目標値を上回った一方で、著書件数や論文件数、学会報告件数については、多くの年度で目標値に達しなかった。特に、研究成果の重要な指標である論文件数については、目標未達の原因分析の上対策を講じられたい。

(No.6) 研究実施体制の整備等【a：中期計画の達成状況は良好である】

Researchmapへの登録推進や平成30年度に構築したコンサルテーションシステムを本格始動し若手研究者へ学習支援を行ったことなど、科学研究費獲得に向けて教員のニーズを把握し、様々な組織的支援策を講じてきた。

また、令和5年度には、研究環境改善と新たなニーズ調査を目的として、若手教員が研究について困っている事柄を相談する「研究相談アワー」を開始した。

こうした取組を含め、大学では組織的・継続的に研究活動の支援環境を整備してきているが、外部研究資金申請件数は中期目標期間を通して目標に達しておらず、中期目標期間の最終年度である令和6年度、外部研究資金獲得件数が期間最少となるなど、研究水準の向上及び成果に結びついていない指標もあることから、引き続き、研究支援体制の整備に取り組まれない。

【参考】

年度評価における「研究」に関する中期計画の進捗状況評価

R1	R2	R3	R4	R5	R6
B	B	B	B	A	B

(進捗状況評価基準)

S : 優れて順調、A : 順調、B : 概ね順調
C : やや遅れている、D : 遅れている

指標（数値目標）の進捗状況一覧

中項目	指 標	目標値/実績値/達成度[達成率]						
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	
(No.5) 研究水準及び成果等	No.6 著書件数	目標値	10件	10件	10件	10件	10件	10件
		実績値	7件	6件	12件	7件	10件	9件
		達成度	△ [70.0%]	△ [60.0%]	◎ [120.0%]	△ [70.0%]	◎ [100.0%]	○ [90.0%]
	No.7 論文件数	目標値	72件	72件	72件	72件	72件	72件
		実績値	57件	49件	43件	48件	85件	33件
		達成度	△ [79.2%]	△ [68.1%]	▲ [59.7%]	△ [66.7%]	◎ [118.1%]	▲ [45.8%]
	No.7 論文（査読付き）件数	目標値	65件	65件	65件	65件	65件	65件
		実績値	51件	42件	37件	40件	69件	32件
		達成度	△ [78.5%]	△ [64.6%]	▲ [56.9%]	△ [61.5%]	◎ [106.2%]	▲ [49.2%]
	No.8 学会報告件数	目標値	123件	123件	123件	123件	123件	123件
		実績値	121件	97件	70件	84件	85件	106件
		達成度	○ [98.4%]	△ [78.9%]	▲ [56.9%]	△ [68.3%]	△ [69.1%]	○ [86.2%]
No.9 論文等の被引用件数	目標値	33件	33件	33件	33件	33件	33件	
	実績値	37件	70件	100件	91件	90件	78件	
	達成度	◎ [112.1%]	◎ [212.1%]	◎ [303.0%]	◎ [275.8%]	◎ [272.7%]	◎ [236.4%]	
参考 大学における研究発表会の開催件数	目標値	4件	4件	4件	4件	4件	4件	
	実績値	4件	1件	5件	5件	5件	4件	
	達成度	◎ [100.0%]	▲ [25.0%]	◎ [125.0%]	◎ [125.0%]	◎ [125.0%]	◎ [100.0%]	
(No.6) 研究実施体制の整備等	No.10 外部研究資金申請件数	目標値	35件	35件	35件	35件	35件	35件
		実績値	32件	26件	19件	17件	19件	19件
		達成度	○ [91.4%]	△ [74.3%]	▲ [54.3%]	▲ [48.6%]	▲ [54.3%]	▲ [54.3%]
	No.10 外部研究資金獲得件数	目標値	20件	20件	20件	20件	20件	20件
		実績値	21件	24件	29件	27件	31件	20件
		達成度	◎ [105.0%]	◎ [120.0%]	◎ [145.0%]	◎ [135.0%]	◎ [155.0%]	◎ [100.0%]

* 指標の達成度 = ◎達成 (100%以上) ○概ね達成 (80%以上~100%未満) △やや遅れている (60%以上~80%未満) ▲遅れている (60%未満)

大項目3 地域貢献・国際交流に関する目標

評価結果

A：中期目標の達成状況は『良好』である

ア 評価理由

看護職へのリカレント教育について、看護職学習支援公開講座をオンラインにより開催し、インターネットを利用した学習支援サイト（どこでもカレッジプロジェクト）において動画教材の公開を進めた。

また、専門性の高い看護職員の確保と定着に向けて、令和6年度から上越圏域（上越市、糸魚川市、妙高市）看護部長会の活動支援に取り組むこととし、同会主催の研修会の企画、運営をサポートした。

新型コロナウイルス感染症対応として、令和3年度に、上越市・妙高市からの新型コロナワクチン接種にかかる協力要請に対し、延べ500人程度の学生がワクチン接種会場において、来場者の誘導・衣服着脱介助等に従事し、令和4年度には、上越保健所の協力要請に応え、新型コロナウイルス感染症に係る電話相談業務に学生が従事するなど、大学の特色を活かした地域貢献に取り組んだ。また、令和6年能登半島地震の際は、避難所である大学を即座に開放し、避難者約35名に場を提供した。

新型コロナウイルス感染症の影響により国際交流が困難な中期目標期間であった。小規模校ながら国際交流を継続してきたことを評価する。

これらの実績を評価し、地域貢献・国際交流に関する目標の達成状況は、「良好」とであると判断した。

イ 中項目別評価結果

(No.7) 地域社会ニーズへの対応【a：中期計画の達成状況は良好である】

看護職へのリカレント教育について、看護職学習支援公開講座をオンラインにより開催し、インターネットを利用した学習支援サイト（どこでもカレッジプロジェクト）において動画教材の公開を進めた。

新型コロナウイルス感染症対応として、令和3年度には、上越市・妙高市からの新型コロナワクチン接種にかかる協力要請に対し、延べ500人程度の学生がワクチン接種会場において、来場者の誘導・衣服着脱介助等に従事し、令和4年度には、上越保健所の協力要請に応え、新型コロナウイルス感染症に係る電話相談業務に学生が従事するなど、大学の特色を活かした地域貢献に取り組んだ。

また、令和6年能登半島地震の際は、避難所である大学を即座に開放し、避難者約35名に場を提供した。引き続き、地域住民等との交流促進に向け、各種事業に積極的に取り組んでいただきたい。

(No.8) 地域社会との連携【a：中期計画の達成状況は良好である】

上越地域における看護の連携と質の向上を図るため、地域課題研究発表会及び上越地域看護研究発表会を、毎年度（令和2年度を除く）、新型コロナウイルス感染症対策を講じながらオンラインを併用して開催した。

また、専門性の高い看護職員の確保と定着に向けて、令和6年度から上越圏域

(上越市、糸魚川市、妙高市) 看護部長会の活動支援に取り組むこととし、同会主催の研修会の企画、運営をサポートした。

今後も大学の特色を活かし、看護職者の教育・研修活動等を推進していくことを期待したい。

(No.9) 国際交流【b：中期計画の達成状況は概ね良好である】

令和元年度は、マレーシアで国際アルツハイマー病協会によるアジア太平洋地域会議が開催され、学生2名と引率教員1名が参加し、日本の若者の認知症に関わる取組を学生が発表した。

令和4年度以降は、クライストチャーチ工科大学(Ara)との国際交流協定に基づく2週間のニュージーランド看護研修を実施した。5回の事前研修を経て、学生と引率教員が渡航し、Araを拠点に看護英語クラス受講、保健医療施設見学、看護学演習参加、ホームステイ等を行った。

令和6年度には、新潟県立大学が主催する国際交流推進基金事業「新潟とモンゴルをつなぐ架け橋グローバル人材育成プロジェクト」において学部生1名が参加した。

新型コロナウイルス感染症により国際交流が困難な中期目標期間であった。小規模校ながら国際交流を継続してきたことを評価する。

【参考】

年度評価における「地域貢献・国際交流」に関する中期計画の進捗状況評価

R1	R2	R3	R4	R5	R6
A	B	A	A	A	A

(進捗状況評価基準)

S：優れて順調、A：順調、B：概ね順調
C：やや遅れている、D：遅れている

指標(数値目標)の進捗状況一覧

中項目	指標	目標値/実績値/達成度[達成率]						
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	
(No.7) 地域社会ニーズへの対応	No.11 公開講座(開催件数)	目標値	25回	25回	25回	25回	25回	
		実績値	21回	-	14回	16回	15回	18回
		達成度	○ [84.0%]	[-]	▲ [56.0%]	△ [64.0%]	△ [60.0%]	△ [72.0%]
	No.11 公開講座(聴講者数)	目標値	1,720人	1,720人	1,720人	1,720人	1,720人	1,720人
		実績値	1,685人	-	774人	805人	1,025人	1,018人
		達成度	○ [98.0%]	[-]	▲ [45.0%]	▲ [46.8%]	▲ [59.6%]	▲ [59.2%]
No.11 公開講座(満足度)(5段階評価の上位2位の割合)	目標値	89%	89%	89%	89%	89%	89%	
	実績値	88.8%	-	79.6%	84.4%	84.6%	85.8%	
	達成度	○ [99.8%]	[-]	○ [89.4%]	○ [94.8%]	○ [95.1%]	○ [96.4%]	
No.15 マスメディアに取り上げられた件数(新聞掲載数)	目標値	210件	210件	210件	210件	210件	210件	
	実績値	281件	268件	226件	218件	202件	170件	
	達成度	◎ [133.8%]	◎ [127.6%]	◎ [107.6%]	◎ [103.8%]	○ [96.2%]	○ [81.0%]	
No.12 看護職リカレント教育登録者数	目標値	19人	19人	19人	19人	19人	19人	
	実績値	45人	4人	18人	26人	19人	16人	
	達成度	◎ [236.8%]	▲ [21.1%]	○ [94.7%]	◎ [136.8%]	◎ [100.0%]	○ [84.2%]	
(No.8) 地域社会との連携	No.13 研究指導等講師派遣数	目標値	81人	81人	81人	81人	81人	
		実績値	95人	62人	67人	80人	60人	67人
		達成度	◎ [117.3%]	△ [76.5%]	○ [82.7%]	○ [98.8%]	△ [74.1%]	○ [82.7%]
	No.14 審議会等委員委嘱数	目標値	47人	47人	47人	47人	47人	
		実績値	42人	43人	57人	49人	68人	47人
		達成度	○ [89.4%]	○ [91.5%]	◎ [121.3%]	◎ [104.3%]	◎ [144.7%]	◎ [100.0%]
No.16 臨床現場・行政機関と人事交流を行う人数(2年以上の者)	目標値	1人	1人	1人	2人	2人	3人	
	実績値	1人	1人	1人	2人	2人	3人	
	達成度	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [67%]	◎ [67%]	◎ [100%]	
(No.9) 国際交流	No.17 海外大学との交流提携校数	目標値	調査検討	調査検討	調査検討	調査検討	調査検討	
		実績値	-	-	-	-	-	-
		達成度	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]
	No.18 海外大学との交流人数(学生)	目標値	6人	6人	6人	6人	6人	6人
		実績値	2人	-	-	7人	7人	8人
		達成度	▲ [33.3%]	[-]	[-]	◎ [116.7%]	◎ [116.7%]	◎ [133.3%]
No.18 海外大学との交流人数(教員)	目標値	3人	3人	3人	3人	3人	3人	
	実績値	2人	-	-	4人	2人	2人	
	達成度	△ [66.7%]	[-]	[-]	◎ [133.3%]	△ [66.7%]	△ [66.7%]	

* 指標の達成度 = ◎達成(100%以上) ○概ね達成(80%以上~100%未満) △やや遅れている(60%以上~80%未満) ▲遅れている(60%未満)

大項目4 業務運営の改善及び効率化に関する目標

評価結果

A：中期目標の達成状況は『良好』である

ア 評価理由

新型コロナウイルス感染症に対し、新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、状況に応じて機動的な対応を行った。

また、学内・学外における公益通報窓口の設置や、内部監査の実施時期の前倒しによる監査結果や改善結果の監査年度内における反映を図るなど、経営課題を各組織で共有し、継続的・機動的に対応している。限られた経営資源の下、学生、卒業生、教員や地域のニーズに対応し、柔軟に組織運営しているものと評価する。

教員については、年間を通じた公募により、毎年度、全ての科目群に教員の適正配置が行われており、県内現役看護職者を特任講師として、専門看護師（CNS）養成課程の教育に活用するなど、教員人材確保への努力と成果は評価できる。また、教員評価システムに基づき、業績評価及び業績による研究費の追加配分を行うことで処遇に反映させた。加えて、令和6年度には、教員業績評価基準の見直しを行った。

事務局職員については、職員体制の向上に向けた計画的な研修への参加や事務局内異動を推進した結果、事務局の学生対応に関する学生満足度は、毎年度目標を上回った。

これらの実績を評価し、業務運営の改善及び効率化に関する目標の達成状況は、「良好」とであると判断した。

イ 中項目別評価結果

(No.10) 運営体制の改善【a：中期計画の達成状況は良好である】

新型コロナウイルス感染症に対し、新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、状況に応じて機動的な対応を行った。

また、学内・学外における公益通報窓口の設置や、内部監査の実施時期の前倒しによる監査結果や改善結果の監査年度内における反映を図るなど、経営課題を各組織で共有し、継続的・機動的に対応している。

令和6年度、専門性の高い看護職員の育成に向けて新たに上越圏域看護部長会の活動を支援するとともに、県立中央病院と双方の組織成長を目指した連携強化を行った。また、学内全体のDXを効果的に進めるため、推進計画を策定し、理事長直轄のDX推進タスクフォースを設置した。

また、令和7年4月に、「教学マネジメント委員会」を設置することを決定するとともに規程整備を行い、教育研究水準の向上のための体制強化を進めた。今後、教学マネジメント委員会の具体的な権限、運用プロセス、成果の可視化に向けた仕組みの整備に期待する。

(No.11) 人事の適正化【a：中期計画の達成状況は良好である】

教員については、年間を通じた公募により、毎年度、全ての科目群に教員の適正配置が行われており、県内現役看護職者を特任講師として、専門看護師（CNS）養成課程の教育に活用するなど、教員人材確保への努力と成果は評価できる。

また、教員評価システムに基づき、業績評価及び業績による研究費の追加配分を行うことで処遇に反映させた。加えて、令和6年度には、教員業績評価基準の見直しを行い、「英語論文」を執筆した場合も処遇に反映することとした。

事務局職員については、職員体制の向上に向けた計画的な研修への参加や事務局内異動を推進した結果、事務局の学生対応に関する学生満足度は、毎年度目標を上回った。

(No.12) 事務の効率化・合理化【a：中期計画の達成状況は良好である】

Web 出願システムを導入し事務の効率化を図るとともに、新学務システムを導入し、履修登録や成績処理等の作業を電子化し、学生・事務局職員双方の負担軽減を図った。

また、入学手続システムの導入を決定し、入学予定者が書類で手続を行う負担と、事務職員が書類の内容を入力する業務を削減することとした。

加えて、財務会計システムの更新に併せて、教員が物品購入等を電子的に申請できる機能を導入することで、教職員の負担軽減を図った。

期間を通して、各種システムの導入や手続きの見直しにより事務の効率化を図っていることは評価できる。引き続き、組織的な取組を期待する。

【参考】

年度評価における「業務運営の改善及び効率化」に関する中期計画の進捗状況評価

R1	R2	R3	R4	R5	R6
A	A	A	A	B	A

(進捗状況評価基準)
 S：優れて順調、A：順調、B：概ね順調
 C：やや遅れている、D：遅れている

指標（数値目標）の進捗状況一覧

中項目	指標	目標値/実績値/達成度[達成率]						
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	
(No.10) 運営体制の改善	No.23 業務改善率（監査指導等）	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		実績値	指摘なし	指摘なし	100%	100%	100%	100%
		達成度	[-]	[-]	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]
(No.11) 人事の適正化	No.19 教員が適正に配置されている科目群の割合	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		実績値	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		達成度	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]
	No.20 客員・特任教員の人数	目標値	10人	10人	10人	10人	10人	10人
		実績値	10人	10人	10人	10人	10人	10人
		達成度	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]
	No.21 任期制・年俸制を適用している教員の割合	目標値	13%	13%	13%	13%	13%	13%
		実績値	18.5%	15.7%	15.1%	13.7%	12.7%	13.7%
		達成度	◎ [142.3%]	◎ [120.8%]	◎ [116.2%]	◎ [105.4%]	○ [97.7%]	◎ [105.4%]
	No.22 事務局の対応学生満足度（5段階評価の上位2位の割合）	目標値	79%	79%	79%	79%	79%	79%
		実績値	93.5%	85.8%	91.8%	88.9%	87.7%	85.5%
		達成度	◎ [118.4%]	◎ [108.6%]	◎ [116.2%]	◎ [112.5%]	◎ [111.0%]	◎ [108.2%]

* 指標の達成度 = ◎達成（100%以上） ○概ね達成（80%以上～100%未満） △やや遅れている（60%以上～80%未満） ▲遅れている（60%未満）

大項目5 財務内容の改善に関する目標

評価結果

B：中期目標の達成状況は『概ね良好』である

ア 評価理由

様々な取組により外部資金獲得のための研究環境の整備に努めた一方で、外部研究資金獲得金額は令和5年度から令和6年度にかけて減少している。また、自己収入比率は運営費交付金の増減等の影響を受けるが、主な収入である授業料収入は大学院の定員割れの影響で減少傾向にある。

長期使用による経年劣化や運転に支障が生じてきた設備等について、適宜点検や業者との確認調整を行いながら、修繕や更新工事を行った。年度計画に含まれない緊急的措置として、遠隔授業の導入等に伴う全館 Wi-Fi 環境の整備などの感染症対策や、校舎玄関前広場のブロック舗装などの老朽化対策を実施した。老朽施設をきめ細かく管理し、維持修繕していることを評価する。

これらの状況を総合的に評価し、財務内容の改善に関する目標の達成状況は、「概ね良好」と判断した。

イ 中項目別評価結果

(No.13) 自己収入の増加【a：中期計画の達成状況は良好である】

様々な取組により外部資金獲得のための研究環境の整備に努めた一方で、外部研究資金獲得金額は令和5年度から令和6年度にかけて減少している。引き続き外部研究資金の獲得に努めてもらいたい。

また、自己収入比率は中期目標期間を通して達成もしくは概ね達成であるが、運営交付金の増減及び会計処理の変更の影響を受けたものであり、主な自己収入である授業料収入は大学院の定員割れの影響で減少傾向にある。大学院の定員を確保するとともに、例えば、保健師課程の授業料の差別化を図るなど、可能であれば授業料の見直しを検討されたい。

(No.14) 経費節減【b：中期計画の達成状況は概ね良好である】

前期間中は随意契約をしていた電気契約について、令和元年12月から一般競争入札を行い経費節減に繋げた。また、随意契約においては、新たな業者を含めて複数業者からの見積合わせを行い価格の抑制を図るなど、経費節減に向けて着実に取り組んだ。

(No.15) 資産の運用管理の改善【a：中期計画の達成状況は良好である】

長期使用による経年劣化や運転に支障が生じてきた設備等について、適宜点検や業者との確認調整を行いながら、修繕や更新工事を行った。年度計画に含まれない緊急的措置として、遠隔授業の導入等に伴う全館 Wi-Fi 環境の整備などの感染症対策や、校舎玄関前広場のブロック舗装などの老朽化対策を実施した。

また、20 周年記念寄付金を活用して使用頻度の高い教室のプロジェクター、スクリーンを更新し、学修環境を整備した。

老朽施設をきめ細かく管理し、維持修繕していることを評価する。

【参考】

年度評価における「財務内容の改善」に関する中期計画の進捗状況評価

R1	R2	R3	R4	R5	R6
B	B	B	B	B	B

(進捗状況評価基準)

S：優れて順調、A：順調、B：概ね順調
C：やや遅れている、D：遅れている

指標（数値目標）の進捗状況一覧

中項目	指標	目標値/実績値/達成度[達成率]						
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	
(No.13) 自己収入の増加	No.24 自己収入比率 (自己収入/経常収益)	目標値	33%	33%	33%	33%	33%	33%
		実績値	33.4%	35.0%	36.6%	36.3%	29.7%	33.6%
		達成度	◎ [101.2%]	◎ [106.1%]	◎ [110.9%]	◎ [110.0%]	○ [90.0%]	◎ [101.8%]
	No.25 外部研究資金比率 (外部研究資金/経常収益)	目標値	2.3%	2.3%	2.3%	2.3%	2.3%	2.3%
		実績値	2.5%	1.6%	1.8%	1.9%	2.5%	1.8%
		達成度	◎ [108.7%]	△ [69.6%]	△ [78.3%]	○ [82.6%]	◎ [108.7%]	△ [78.3%]

* 指標の達成度 = ◎達成 (100%以上) ○概ね達成 (80%以上~100%未満) △やや遅れている (60%以上~80%未満) ▲遅れている (60%未満)

大項目6 自己点検・評価及び情報公開の推進に関する目標

評価結果

B：中期目標の達成状況は『概ね良好』である

ア 評価理由

令和6年度に大学教育質保証・評価センターによる認証評価を受審した。その評価結果を受け、改善を要する点については早急に対応を進めるとともに、第3期中期目標期間となる令和7年4月に教学マネジメント委員会を設置することを決定した。

毎年度、教育研究活動、経営状況、業務評価結果などをホームページで逐次公表した。期間を通してホームページのアクセス件数は高水準を維持し、令和3年度には、積極的にWeb発信を行うことで、目標値の2倍を超えた。

これらの状況を総合的に判断した結果、自己点検・評価及び情報公開の推進に関する目標については、「概ね良好」とであると判断した。

イ 中項目別評価結果

(No.16) 自己点検・評価の実施【b：中期計画の達成状況は概ね良好である】

令和6年度に大学教育質保証・評価センターによる認証評価を受審した。その評価結果を受け、改善を要する点については早急に対応を進めるとともに、第3期中期目標期間となる令和7年4月に教学マネジメント委員会を設置することを決定した。

そのほか、法人評価で指摘された課題・提言について、毎年度真摯に取り組んだといえる。

(No.17) 情報公開の推進【b：中期計画の達成状況は概ね良好である】

毎年度、教育研究活動、経営状況、業務評価結果などをホームページで逐次公表した。期間を通してホームページのアクセス件数は高水準を維持し、令和3年度には、積極的にWeb発信を行うことで、目標値の2倍を超えた。

【参考】

年度評価における「自己点検・評価及び情報公開の推進」に関する中期計画の進捗状況評価

R1	R2	R3	R4	R5	R6
B	B	B	B	B	B

(進捗状況評価基準)

S : 優れて順調、A : 順調、B : 概ね順調
C : やや遅れている、D : 遅れている

指標（数値目標）の進捗状況一覧

中項目	指標	目標値/実績値/達成度[達成率]						
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	
(No.16) 自己点検・評価の実施	No.26 自己点検・評価に基づく改善率	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		実績値	指摘なし	指摘なし	指摘なし	指摘なし	指摘なし	指摘なし
		達成度	[—]	[—]	[—]	[—]	[—]	[—]
(No.17) 情報公開の推進	No.27 ホームページのアクセス件数	目標値	900,000件	900,000件	900,000件	900,000件	900,000件	900,000件
		実績値	1,047,141件	1,337,856件	2,205,373件	1,890,793件	1,902,233件	1,286,645件
		達成度	◎ [116.3%]	◎ [148.7%]	◎ [245.0%]	◎ [210.1%]	◎ [211.4%]	◎ [143.0%]

* 指標の達成度 = ◎達成 (100%以上) ○概ね達成 (80%以上~100%未満) △やや遅れている (60%以上~80%未満) ▲遅れている (60%未満)

大項目7 その他業務運営に関する重要目標

評価結果

A：中期目標の達成状況は『良好』である

ア 評価理由

施設整備について、第1期中期目標期間中に積み立てた積立金や、国の補助金等を活用し、感染症対策や地域ニーズにも対応すべくきめ細かく計画的に改修・更新を行った点を評価する。

危機管理について、当該大学は上越市の指定緊急避難所に位置づけられており、令和2年度に感染症対策に配慮した避難スペースの拡大について上越市から要請を受け、従来の2倍の人数分のスペースが提供できるよう支援体制を整備し、令和3年度に協定を締結した。

令和元年度に大雨特別警報が発令された際は、避難者を受け入れて夜間の安全を確保したほか、令和6年能登半島地震では教職員がすみやかに大学に集まって上越市と連携を取り、避難所を開設して避難者を受け入れるなど、地域の災害対応に大きく貢献した。第2期中期目標期間中、危機管理に係る事象が多く発生したが、教育を継続し、地域社会の一員としての役割を果たすことができたことを高く評価する。

これらの実績を評価し、業務運営に関する目標については、「良好」とであると判断した。

イ 中項目別評価結果

(No.18) 法令遵守の推進【b：中期計画の達成状況は概ね良好である】

学生については学内ガイダンスにおける啓発教育の実施、教職員については綱紀の保持及び服務規律の確保のための指針を周知するなどにより、学生や教職員が遵守すべき事柄について周知した。

研究費等の厳正な取扱いについて、令和2年度に会計ルールハンドブックを作成し、また公的研究費で購入した物品の現品管理をルール化したことについて、不正行為発生を牽制する組織風土を作るものとして評価できる。

(No.19) 施設の効率的整備【a：中期計画の達成状況は良好である】

新型コロナウイルス感染症対策や、地域への施設開放のニーズに対応するため、第1期中期目標期間中に積み立てた積立金や、国の補助金等を活用し、きめ細かく計画的に改修・更新を行った点は評価される。また、業者との調整により2件の工事を同時に施工することで大幅な経費節減に繋げるなど、工事の実施時期や方法を工夫することにより経費削減に努めたことを評価する。

高騰が続く電気料金の抑制を図るために新たな予算を確保し、大学全体の照明器具のLED化を実施した。

今後も施設の老朽化対策やエネルギー高騰への対応が課題となるため、引き続き、施設整備計画を見直ししながら、効率的な設備等の更新を行っていただきたい。

(No.20) 危機管理【s：中期計画の達成状況は優れている】

当該大学は上越市の指定緊急避難所に位置づけられており、令和2年度に感染症対策に配慮した避難スペースの拡大について上越市から要請を受け、従来の2倍の人数分のスペースが提供できるよう支援体制を整備し、令和3年度に協定を締結した。

令和元年度に大雨特別警報が発令された際は、避難者を受け入れて夜間の安全を確保したほか、令和6年能登半島地震では教職員がすみやかに大学に集まって、上越市と連携を取り、避難所を設置して避難者を受け入れるなど、地域の災害対応に大きく貢献した。

第2期中期目標期間中、危機管理に係る事象が多く発生したが、教育を継続し、地域社会の一員としての役割を果たすことができたことを高く評価する。

(No.21) 人権の保護【b：中期計画の達成状況は概ね良好である】

各種ハラスメントなどの人権侵害を防止するため、学年ガイダンスや新任教職員研修の際にリーフレットを配布し、大学の取組の周知や、相談体制の紹介を行った。また、外部講師による研修会の開催や、ハラスメント防止特別委員会の定期開催など、期間を通して継続的に人権教育を実施している。

教職員間だけでなく、学生と教員間や、実習先（施設職員や患者）と学生間など、ハラスメントの内容も広く多様化していることから、引き続き対応体制の整備や啓発活動を進めていただきたい。

(No.22) 情報セキュリティ対策【b：中期計画の達成状況は概ね良好である】

情報セキュリティ対策に関する規程について「政府機関等の情報セキュリティ対策のための統一基準群」等に則り、学内の規程の見直し・策定を行い、教授会で周知した。また、電磁的記録媒体取扱要領の一部改正を行い、個人情報を保存した持ち出し可能な媒体の管理方法や持ち出す際の具体的な手続き等を定めるとともに、情報セキュリティ責任者を明記し、教授会で周知した。

令和元年度にUSBメモリを紛失した事案への対処として、共有ドライブ内に領域単位で利用できる専用フォルダを新設し、複数の職員が情報の紛失なく情報共有することができるようにするとともに、USB等の電子媒体の管理について規程を改正し、個人情報が保存されている媒体の適正管理に対する管理方法の改善を図った。大学が浸水想定区域に指定されていることから、学内にあるサーバーをクラウド化する予定があると聞いている。個人情報の流出を防ぐためにも、計画実施に向けた今後の取組に期待する。

【参考】

年度評価における「その他業務運営」に関する中期計画の進捗状況評価

R1	R2	R3	R4	R5	R6
A	A	B	B	A	B

(進捗状況評価基準)

S：優れて順調、A：順調、B：概ね順調
C：やや遅れている、D：遅れている

4 参考

公立大学法人新潟県立看護大学 中期計画(R1~R6)における指標(数値目標)の達成度一覧

大項目	中項目	指標	目標値/実績値/達成度[達成率]						最終目標値		
			R1	R2	R3	R4	R5	R6			
1 教育	(No.1) 学生の確保	No.2 志願倍率	目標値	4.3倍	4.3倍	4.3倍	4.3倍	4.3倍	4.3倍	4.3倍	
			実績値	4.1倍	3.1倍	8.3倍	3.8倍	4.3倍	4.7倍		
	(No.3) 教育の実施体制	No.3 学生の授業内容満足度(5段階評価の平均)	目標値	4.2点	4.2点	4.2点	4.2点	4.2点	4.2点	4.2点	
			実績値	4.6点	4.3点	4.4点	4.5点	4.6点	4.7点		
	(No.4) 学生への支援	No.1 国家試験合格率 ※ ○概ね達成(全国平均値以上~100%未満) △やや遅れている(60%以上~全国平均未満)	看護師	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
				実績値	100%	99.0%	100%	97.9%	97.9%	100%	
			保健師	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
				実績値	96.4%	97.8%	97.5%	96.6%	97.5%	100%	
			助産師	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
				実績値	100%	100%	100%	100%	100%	-	
No.4 就職希望者の就職率		目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%		
		実績値	100%	98.9%	100%	100%	97.7%	100%			
No.5 新卒者(全学)の県内就職率		目標値	69%	69%	69%	69%	69%	69%	69%		
		実績値	50.6%	66.7%	59.3%	63.7%	47.7%	68.1%			
No.5 新卒者(県内出身)の県内就職率	目標値	85%	85%	85%	85%	85%	85%	85%			
	実績値	61.1%	77.9%	68.7%	79.5%	59.7%	79.2%				
2 研究	(No.5) 研究水準及び成果等	No.6 著書件数	目標値	10件	10件	10件	10件	10件	10件	10件	
			実績値	7件	6件	12件	7件	10件	9件		
		No.7 論文件数	目標値	72件	72件	72件	72件	72件	72件	72件	
			実績値	57件	49件	43件	48件	85件	33件		
		No.7 論文(査読付き)件数	目標値	65件	65件	65件	65件	65件	65件	65件	
			実績値	51件	42件	37件	40件	69件	32件		
	No.8 学会報告件数	目標値	123件	123件	123件	123件	123件	123件	123件		
		実績値	121件	97件	70件	84件	85件	106件			
	No.9 論文の被引用件数等	目標値	33件	33件	33件	33件	33件	33件	33件		
		実績値	37件	70件	100件	91件	90件	78件			
参考 大学における研究発表会の開催件数	目標値	4件	4件	4件	4件	4件	4件	4件			
	実績値	4件	1件	5件	5件	5件	4件				
(No.6) 研究実施体制の整備等	No.10 外部研究資金申請件数	目標値	35件	35件	35件	35件	35件	35件	35件		
		実績値	32件	26件	19件	17件	19件	19件			
	No.10 外部研究資金獲得件数	目標値	20件	20件	20件	20件	20件	20件	20件		
		実績値	21件	24件	29件	27件	31件	20件			
(No.7) 地域社会ニーズへの対応	No.11 公開講座(開催件数)	目標値	25回	25回	25回	25回	25回	25回	25回		
		実績値	21回	-	14回	16回	15回	18回			
	No.11 公開講座(聴講者数)	目標値	1,720人	1,720人	1,720人	1,720人	1,720人	1,720人	1,720人		
		実績値	1,685人	-	774人	805人	1,025人	1,018人			
	No.11 公開講座(満足度)(5段階評価の上位2位の割合)	目標値	89%	89%	89%	89%	89%	89%	89%		
		実績値	88.8%	-	79.6%	84.4%	84.6%	85.8%			
	No.15 マスメディアに取り上げられた件数(新聞掲載数)	目標値	210件	210件	210件	210件	210件	210件	210件		
		実績値	281件	268件	226件	218件	202件	170件			
	No.12 看護職リカレント教育登録者数	目標値	19人	19人	19人	19人	19人	19人	19人(期間累計114人)		
		実績値	45人	4人	18人	26人	19人	16人			
(No.8) 地域社会との連携	No.13 研究指導等講師派遣数	目標値	81人	81人	81人	81人	81人	81人	81人		
		実績値	95人	62人	67人	80人	60人	67人			
	No.14 審議会等委員委嘱数	目標値	47人	47人	47人	47人	47人	47人	47人		
		実績値	42人	43人	57人	49人	68人	47人			
No.16 臨床現場・行政機関と人事交流を行う人数(2年以上の者)	目標値	1人	1人	1人	2人	2人	3人	3人			
	実績値	1人	1人	1人	2人	2人	3人				
(No.9) 国際交流	No.17 海外大学との交流提携校数	目標値	調査検討	調査検討	調査検討	調査検討	調査検討	調査検討	3校		
		実績値	-	-	-	-	-	-			
	No.18 海外大学との交流人数(学生)	目標値	6人	6人	6人	6人	6人	6人	6人		
		実績値	2人	-	-	7人	7人	8人			
	No.18 海外大学との交流人数(教員)	目標値	3人	3人	3人	3人	3人	3人	3人		
		実績値	2人	-	-	4人	2人	2人			
達成度	△[66.7%]	[-]	[-]	◎[133.3%]	△[66.7%]	△[66.7%]					

公立大学法人新潟県立看護大学 中期計画(R1~R6)における指標(数値目標)の達成度一覧

大項目	中項目	指標	目標値/実績値/達成度[達成率]						最終目標値	
			R1	R2	R3	R4	R5	R6		
4 業務運営	(No.10) 運営体制の改善	No.23 業務改善率(監査指導等)	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
			実績値	指摘なし	指摘なし	100%	100%	100%	100%	
			達成度	[-]	[-]	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	
	(No.11) 人事の適正化	No.19 教員が適正に配置されている科目群の割合	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
			実績値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
			達成度	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	
		No.20 客員・特任教員の人数	目標値	10人	10人	10人	10人	10人	10人	10人
			実績値	10人	10人	10人	10人	10人	10人	
			達成度	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	◎ [100%]	
		No.21 任期制・年俸制を適用している教員の割合	目標値	13%	13%	13%	13%	13%	13%	13%
			実績値	18.5%	15.7%	15.1%	13.7%	12.7%	13.7%	
			達成度	◎ [142.3%]	◎ [120.8%]	◎ [116.2%]	◎ [105.4%]	○ [97.7%]	◎ [105.4%]	
No.22 事務局の対応学生満足度(5段階評価の上位2位の割合)	目標値	79%	79%	79%	79%	79%	79%	79%		
	実績値	93.5%	85.8%	91.8%	88.9%	87.7%	85.5%			
	達成度	◎ [118.4%]	◎ [108.6%]	◎ [116.2%]	◎ [112.5%]	◎ [111.0%]	◎ [108.2%]			
5 財務	(No.13) 自己収入の増加	No.24 自己収入比率(自己収入/経常収益)	目標値	33%	33%	33%	33%	33%	33%	33%
			実績値	33.4%	35.0%	36.6%	36.3%	29.7%	33.6%	
			達成度	◎ [101.2%]	◎ [106.1%]	◎ [110.9%]	◎ [110.0%]	○ [90.0%]	◎ [101.8%]	
	No.25 外部研究資金比率(外部研究資金/経常収益)	目標値	2.3%	2.3%	2.3%	2.3%	2.3%	2.3%	2.3%	
		実績値	2.5%	1.6%	1.8%	1.9%	2.5%	1.8%		
達成度	◎ [108.7%]	△ [69.6%]	△ [78.3%]	○ [82.6%]	◎ [108.7%]	△ [78.3%]				
6 自己点検	(No.16) 自己点検・評価の実施	No.26 自己点検・評価に基づく改善率	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
			実績値	指摘なし	指摘なし	指摘なし	指摘なし	指摘なし	指摘なし	
			達成度	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
	(No.17) 情報公開の推進	No.27 ホームページのアクセス件数	目標値	900,000件	900,000件	900,000件	900,000件	900,000件	900,000件	900,000件
			実績値	1,047,141件	1,337,856件	2,205,373件	1,890,793件	1,902,233件	1,286,645件	
達成度	◎ [116.3%]	◎ [148.7%]	◎ [245.0%]	◎ [210.1%]	◎ [211.4%]	◎ [143.0%]				

* 指標の達成度 = ◎達成 (100%以上) ○概ね達成 (80%以上~100%未満) △やや遅れている (60%以上~80%未満) ▲遅れている (60%未満)

公立大学法人新潟県立看護大学の中期目標期間の業務実績評価(期間評価)実施要領

平成 31 年 2 月 1 日
新潟県公立大学法人評価委員会

第 1 趣旨

この要領は、地方独立行政法人法（以下「法」という。）第 78 条の 2 の規定及び当該規定に基づき定められた県規則（新潟県公立大学法人の業務運営並びに財務及び会計に関する規則）に基づき、新潟県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）が行う公立大学法人新潟県立看護大学（以下「法人」という。）の中期目標期間の業務実績に関する評価（以下「期間評価」という。）を適切に行うため、評価の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

第 2 評価の目的

評価委員会が行う評価は、法人の業務運営の自主的かつ継続的な見直し・改善を促し、もって、法人の業務の質的向上、業務運営の効率化、透明性の確保に資することを目的として行う。

第 3 評価の基本方針

期間評価は、中期目標の達成状況を確認する観点から行い、評価に当たっては、総合的かつ効率的に行うこととする。

なお、評価の際は、大学の教育研究の特性や大学運営の自主性・自律性に配慮するとともに、評価を通じて、法人の中期目標の達成状況を県民に分かりやすく示すよう努めるものとする。

第 4 期間評価の実施時期

期間評価は、当該中期目標期間終了後、概ね 5 月以内に実施するものとする。

第 5 期間評価の実施方法

1 評価手法

期間評価は、その目的を効率的かつ効果的に達成するため、業務実績に基づき法人が行う自己評価結果を踏まえ、項目別に評価の上、中期目標の達成状況について総合的な評価（全体評価）を行う。

2 評価項目

評価項目は、表 1 のとおりとする。

3 評価基準

評価にあたっては、表 2 の取扱いを基本に、取組状況や目標の難易度、外的要因等、それぞれの状況を総合的に勘案して評価するものとする。

なお、評価にあたっては、法第 79 条の規定に基づき、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 109 条第 2 項に規定する認証評価機関の教育及び研究の状況についての評価を踏まえるものとする。

4 評価の手順

(1) 中項目別評価

ア 法人による実績報告

法人は、事業単位及び指標単位の業務実績（中期計画における各事業の実施状況及び事業の成果に関する指標の達成度）をとりまとめ、表 1 に定める中項目ごとに、3 に定める評価基準に沿い自己評価の上、業務実績報告書を作成し、中期目標の期間の終了後 3 月以内に評価委員会に提出する。

なお、指標の達成度の算定基準は、表 3 のとおりとする。ただし、指標の性質から、表 3 により達成度を算定しがたい指標については、表 3-2 によるものとする。

イ 評価委員会による検証・評価

評価委員会は、法人から提出された業務実績報告書について、法人関係者からのヒアリング等により検証の上、表 1 で定める中項目ごとに、3 に定める評価基準により、評価する。

なお、評価委員会は、検証、評価を行う上で必要がある場合、法人に対して資料の追加提出を求めることができるものとする。

ウ 法人意見の聴取、申立て機会の付与

評価の透明性、正確性を確保するため、評価委員会は、法人の実績報告・自己評価に基づき実施した中項目評価について、評価結果の決定に先立ち、法人に評価結果案を提示し、意見申立ての機会を付与する。

なお、法人は、当該案に対する意見を、書面により評価委員会に申し出るものとする。

エ 評価の確定

評価委員会は、中項目別評価案に対する法人意見を踏まえ、必要に応じて法人関係者の説明を受けて当該意見の適否を審議し、当該案に修正を加える等により中項目別評価を確定する。

(2) 大項目別評価

評価委員会は、(1)における中項目別評価結果を踏まえ、表 1 に定める大項目ごとに、3 に定める評価基準により、中期目標の達成状況を総合的に勘案して評価する。

(3) 全体評価

評価委員会は、項目別評価の結果を踏まえ、3 に定める評価基準により、中期目標

の全体的な達成状況を総合的に勘案して評価する。

第6 評価結果の取扱い等

1 評価結果の通知及び公表等

評価委員会は、評価結果を確定したときは、評価書としてとりまとめ、遅滞なく当該評価書を法人及び知事に送付するとともに新潟県ホームページ等で公表する。

2 評価結果の活用

法人は、評価結果を自らの業務運営等の見直し又は改善に活用・反映させていくものとする。

なお、評価委員会は、評価に際し、従前の評価結果等に対する法人の業務運営への活用・反映状況等を確認するものとする。

第7 評価方法の継続的な見直し

この要領については、期間評価の実施状況等を踏まえ、必要に応じて見直すものとする。

第8 その他

この要領に定めるもののほか、評価の実施に際して必要な事項は、評価委員会が別に定める。

附 則

この要領は、平成31年4月1日から施行する。

(表 1 : 期間評価における評価項目)

評価区分	全体評価	項目別評価		
		大項目別評価	中項目別評価	
評価対象	項目別評価を踏まえた、中期目標全体の進捗状況	中項目別評価を踏まえた、中期目標における次の7区分ごとの進捗状況	事業単位及び指標単位(小項目別)の業務実績を基に、法人が行う自己評価を踏まえた、中期計画における次の区分ごとの進捗状況	(中期計画)
評価項目	中期目標全体	1 教育に関する目標 (中期目標 第2の1)	(1) 学生の確保	第1の1 (1)
			(2) 教育の内容	第1の1 (2)
			(3) 教育の実施体制	第1の1 (3)
			(4) 学生への支援	第1の1 (4)
		2 研究に関する目標 (中期目標 第2の2)	(1) 研究水準及び成果等	第1の2 (1)
			(2) 研究実施体制の整備等	第1の2 (2)
		3 地域貢献・国際交流に関する目標 (中期目標 第2の3)	(1) 地域社会ニーズへの対応	第1の3 (1)
			(2) 地域社会との連携	第1の3 (2)
			(3) 国際交流	第1の3 (3)
		4 業務運営の改善及び効率化に関する目標 (中期目標 第3)	(1) 運営体制の改善	第2の1
			(2) 人事の適正化	第2の2
			(3) 事務の効率化・合理化	第2の3
		5 財務内容の改善に関する目標 (中期目標 第4)	(1) 自己収入の増加	第3の1
			(2) 経費節減	第3の2
			(3) 資産の運用管理の改善	第3の3
		6 自己点検・評価及び情報公開の推進に関する目標 (中期目標 第5)	(1) 自己点検・評価の実施	第4の1
			(2) 情報公開の推進	第4の2
		7 その他業務運営に関する重要目標 (中期目標 第6)	(1) 法令遵守の推進	第5の1
			(2) 施設の効率的整備	第5の2
			(3) 危機管理	第5の3
			(4) 人権の保護	第5の4

※ 中期計画の第6から第10に係る実績については、全体評価の際に参考情報として用いる。

(表2：期間評価における評価基準)

評価区分		評定	標 語	評価の目安
項目別評価	中項目別評価	s	中期計画の達成状況は優れている	特に優れる若しくは顕著な成果
		a	中期計画の達成状況は良好である	上回る若しくは十分な実施
		b	中期計画の達成状況は概ね良好である	実施
		c	中期計画の達成状況はやや不十分である	下回る若しくは実施が不十分
		d	中期計画の達成状況は不十分である	特に劣る若しくは実施せず
	大項目別評価	S	中期目標の達成状況は優れている	大項目（7区分）別に、中期目標の達成状況について、中項目別評価から総合的に勘案し、評価
		A	中期目標の達成状況は良好である	
		B	中期目標の達成状況は概ね良好である	
		C	中期目標の達成状況はやや不十分である	
		D	中期目標の達成状況は不十分である	
全体評価		中期目標の達成状況は優れている	中期目標全体の達成状況について、項目別評価から総合的に勘案し、評価	
		中期目標の達成状況は良好である		
		中期目標の達成状況は概ね良好である		
		中期目標の達成状況はやや不十分である		
		中期目標の達成状況は不十分である		

(表3：指標の達成度の算定基準)

	符号	標 語	達成度の算定基準
指標の達成度	◎	達成	達成率 100%若しくは100%以上
	○	概ね達成	達成率 80%以上 100%未満
	△	やや遅れている	達成率 60%以上 80%未満
	▲	遅れている	達成率 60%未満

(表3-2：実施要領第5の4(1)ア表3の基準を適用しない指標の達成度の算定基準)

指 標	符号	標 語	達成度の算定基準
「国家資格の取得率」の達成度 《参考：評価方法》 ・看護師合格率 ・保健師合格率 ・助産師合格率	◎	達成	合格率 100%
	○	概ね達成	合格率「直近の全国合格率平均値」以上 100%未満
	△	やや遅れている	合格率 80%以上「直近の全国合格率平均値」未満
	▲	遅れている	合格率 80%未満
「就職希望者の就職率」の達成度	◎	達成	就職率 100%
	○	概ね達成	就職率「直近の公立大学医療福祉系学部における就職希望者の就職率の全国平均値」以上 100%未満
	△	やや遅れている	就職率 80%以上「直近の公立大学医療福祉系学部における就職希望者の就職率の全国平均値」未満
	▲	遅れている	就職率 80%未満

新潟県公立大学法人評価委員会 看護大学部会委員

(五十音順・敬称略)

選出分野	氏 名	現 職
会計	かしろ さとこ 神代 聡子	公認会計士・税理士
地域・経営	なかじょう みなこ 中條 美奈子	認定NPO 法人マミーズ・ネット 理事長
教育・研究	【委員長・部会長】 なりた いちえい 成田 一衛	公益財団法人新潟県スポーツ協会 新潟県健康づくり・スポーツ医科学 センター センター長
教育・研究	ひしぬま みちこ 菱沼 典子	聖路加国際大学 名誉教授